

姫路市医師会

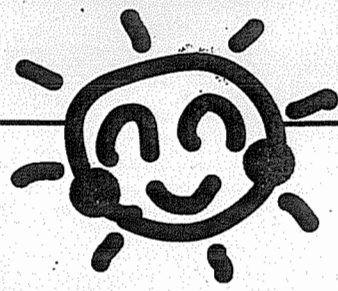
ほうもん かんご

訪問看護ステーションだより

居宅介護支援事業所

姫路市医師会訪問看護ステーション 姫路市西今宿三丁目7番21号 TEL079-295-3377

No.028 2008.7 発行



●●● 姫路市医師会訪問看護ステーションの現状 ●●●

H.20年5月の状況

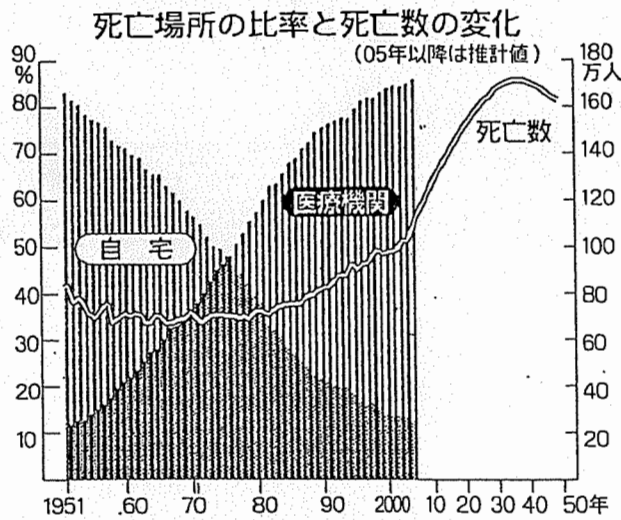
- 利用者数 136人
- 訪問延べ回数 843回
- 在宅での看取り 3ケース
- 点滴目的の訪問 10人
- 特別管理加算利用者 31名
- 緊急連絡体制利用者 63人
- (医師会訪問看護ステーションは全員に緊急体制を取るのではなく、利用者さんの希望と主治医の指示により必要な方に選択的に取っています)
- 緊急携帯コール 6回
- 担当看護師が電話のみで対応 3ケース
- 担当看護師が訪問し処置 3ケース (内1ケース主治医連絡往診)

★ 季節は夏になりました。子供のころは夏には楽しい事がいっぱい待ってる、わくわくする季節だったように思います。今では、あまり楽しみではなくなったように思います。それでも真っ青な空にまっ白な入道雲がもくもく広がっているのを見ると、地球もまだまだ元気だなあと嬉しくなったりします。

七夕の夜に降る雨を酒涙雨(さいるい)といい、織姫と彦星が流す涙だと伝えられています。今年の七夕のお天気はどうでしょうか。



自分の望む臨終とは



終末期医療に関する厚労省の意識調査では、4人に1人が自宅での最期を望みながら、その9割が死の間際には医療機関を利用したいという。人々は医療に不信を抱きつつも、医療抜きの死には、なお強い不安があるようだ。90歳の女性が足の動脈を詰まらせて来院した。強く入院を勧めたが、患者は「いや、お迎えがきたんです」と頑として入院を拒んだ。そばで頭を抱えていた息子さんも「本当に死んじゃうぞ」と脅すのだが、おばあさんは「なおさらありがたい」と平然としたものである。それから3週間、おばあさんは最期まで自宅を離れず、足はいよいよ壊死して痛み

は募ったが、往診の度に、拝むように感謝を言い続けた。恐らくおばあさんは、昔から親兄弟の自然な最期をみてきたのだろう。そして肉親の死の一つ一つを思い起こしながら、自らも同じ最期に身を委ねているのだ。遠く医療のない時代、お年寄りの死とは、冬が近づけば木の葉が散るように、ごく自然なものだったに違いない。皮肉な現象だが、人は豊かさにつれ、医療の進歩につれて、死がますます過酷で、悲惨なものになっていくように感じる。医療では、死を待ちながらも様々な延命治療が続き、病人は風に逆らうようにして死んでいるのが実情だ。自宅での最期とは、あらゆる延命に見切りをつけることであり、死に唯一救いを求める事でもある。こうした畳の上で迎える最期に接すると、私自身、人は病院で死ぬものだという常識に、ひびの入った気もする。堅い白壁の病院より、家族の声と思い出の詰まった我が家のほうが、どれだけ心慰めてくれるかしのれない。病院からホスピスへ、ホスピスから自宅へ…気がつけば、私たちは自然に生き、自然に死んでいくことに、最良の選択を見出し得るのかもしれない。

訪問看護師の五月のある一日



私は、高校生と中学生の2人の子供がいる訪問看護師です。いつものように5時半に起床、朝食の準備と子供の弁当を2個作り、主人、子供達を送り出した後、7時半出勤！朝のミーティングを終え今日の最初の訪問はALSの利用者さんのお宅です。今ある機能で、できる事は何か、4月にできた地域リハビリテーション支援センターのOTさんと同行し、リハビリプログラムを組んで頂きました。二軒目、三軒目は点滴目的での訪問です。その後事務所に戻って看護記録の整理。今日は三軒の訪問でしたが、状態の悪い利用者さんを担当しているので、ちょっと緊急携帯を気にしながらの帰宅です。買い物をして6時過ぎに帰宅。夕食を済ませると、子供の塾の送り(娘なのでつい、送り迎えしています)その時、緊急携帯からの呼び出し！癌で気管切開している方です。21時に利用者訪問。痙攣をおこし、SPO2が60% 主治医に連絡を取り往診。酸素10Lで処置をしながら、家族、本人の意思確認の結果、救急車で病院へ搬送されました。23時過ぎ帰宅。明日も忙しそうだから早く寝ましょう。1分で熟睡できるのが、私の特技です。

今日は死ぬのもってこいの日だ
生きていくのもってこいの日だ
すべての声、わたしの合奏している。
すべての美が、私の目の中で合奏している。
あらゆる悪い考え、私から立ち去っていった。
今日は死ぬのもってこいの日だ。
私の土地は、私を静かに取り巻いている。
私の畑は、もう耕されることはない。
私の家は、笑い声に満ちている。
子ども達は、うちに帰ってきた。
私達も、今日は死ぬのもってこいの日だ

ナンシーワード著
ネイチャーアメリカンの言葉